T（とみや）N（にほん）C（ちゅうごく）通　信

＜第１０９号＞２０１３年９月

「満蒙開拓平和記念館」を訪ねて

〈長野県下伊那郡阿智村駒場 711-10〉

本郷　祐子（写真と文）

この４月、「満蒙開拓平和記念館」がオープンすると聞いて、是非見学したいものと熱望していました。県協会の呼びかけに１８人の方が応募し７月２４日仙台駅から貸し切りバスで出発、２日目が平和記念館の見学でした。梅雨明けのようなジリジリ照りつけるなか国道から“つまさき下がり”の道を降りて谷間の記念館に着きました（**写真上**）。木造平屋建ての清楚な感じで温かみがある、いかにも「開拓平和記念館」らしい建物に迎えられ、セミナールームで三沢事務局長のご挨拶と語り部・久保田諫さんの体験を聞くことができました（**写真下**）。

久保田さんは昭和５年、長野県河野村生まれで、１９年に高等科を卒業し、直後の５月、満州に渡った方でした。久保田さんの小学校時代に「満州国」が建設され国策として満州開拓移民がすすめられ、山と谷の長野県は分村移民の形態で入植が推進された。１４歳で家族から離れ一人で渡満、長春市に近い河野分村に入植し、開拓もほとんどしない８月“根こそぎ動員”となった。しかし１５日無条件降伏で終戦。１６日深夜から１７日未明にかけて７３名の河野村団員は集団自決することになった。小さな子供は親が首を絞め、次は大人が自決、そのうち２人が生き返り、土地の農民に助けられて、一番近い吉林市に向かった。その後は奉天、安東などを捕虜としてソ連軍や八路軍などで強制労働にかり出され、鉄道工事などをした。（２１年８月もう一人の生き残りは死亡）そのような苦労の末、２３年７月３１日、長野の実家にたどり着いたということでした。

１４歳から１８歳までの４年あまり、生きた心地もなかったような辛い体験を一時間ほど聞かせていただいた。戦争を知らない世代となり、満蒙開拓団なぞ聞いたこともない人々が多くなっていく今、自分の体験を語り継ぐことにより、戦争の悲惨さと世界平和の大切さを訴えていきたいと、私たちが記念館を去るまで、ご一緒して下さいました。

真新しい木の香のすがすがしい「満蒙開拓平和記念館」。来ることができて本当によかった。宮城からも開拓団に行った方が多かったと聞きます。中国帰国者支援に関わり、記念館建設にもわずかながら支援した者として、その行く末を見極めたような安堵感を覚えた訪問でした。

「植林調査」で交流

☆☆長春・九台・北京☆☆

８月２１日から行われた「地球環境を守る植林事業視察５日間」には１９名が参加し、富谷日中から水戸会長、本郷・県協会植林担当理事の２名が参加した。

長春市内での吉林省対外友好協会（張宝祥会長）と歓迎宴（**写真上**）では、富谷日中の活動も話題となった。また長春大学日本語学科との交流、更に九台市林業局（郝景春局長）の歓迎宴も持たれた。４月に植えた障子松は順調に生育して約２３～２５㌢になっていた。明年の植林予定地視察や農家訪問、老人ホーム見学も行われ、４日目には北京・人民大会堂と天安門広場（**写真下**）等の見学を楽しんだ。

話題＆情報

「せんだい地球フェスタ２０１３」

市民の国際交流と多文化共生のイベントが本年も開催。県協会が「吉林省植林写真展を、仙台市日中が中国物産の販売による募金を行います。〈日時〉９月１５日（日）１０時～１６時。〈会場〉仙台国際センター。

「女性委員会で恒例の“ゆかた祭り”」

８月７日、女性委員会主催で、「ゆかた祭り」が青葉区の「きもの・にしむら」に１５名の留学生が参加して行われた。好みのゆかたを着て、会員とグループとなり、にぎやかで豪華な仙台七夕を見学した後、昼食、ショッピングを楽しんだ。富谷からは水戸（憲）さんが参加した。

富谷町役場１Ｆで「植林写真展」を開催

９月２４日～３０日まで

４月に実施された九台市での植林活動と交流、さらに８月調査の模様を展示します。